

シリーズ 三郷学

〈三郷学の視点⑫〉

三郷学の視点

7. 資源(人・自然・歴史)

川は昔から三郷の田畑をうるおし、多くの恵みを与えています。また、平時にはその美しい自然でひとをつなぐ憩いの場としても親しまれています。しかし、同時に川は人間の生活により、水質汚染等の危険にさらされやすいもろい一面もあります。一度汚染された川がもとのきれいな状態に戻るには長い年月と膨大な労力がかかります。

近年、川を住民の力できれいにする取り組みが各地で進められています。三郷市では川をきれいにする活動の一環として「大場川浮上ゴミをなくす会」や「三郷の川をきれいにする会」をはじめとする市

民のみなさんが積極的に活動しています。活動のかいあってか、大場川をはじめとした三郷の川はかつての姿を取り戻しつつあり、なかでも江戸川には鮎が遡上するほどです。鮎はきれいな川にしか住めない魚です。

鮎は東京湾から江戸川を遡上し、やがて三郷にやってきます。鮎は「香魚」とも呼ばれ、水質の良い川で育てばスイカの香りがすると言われています。江戸川にいる鮎はさわやかなスイカの香りがします。このことから鮎が江戸川の豊かさを証明していると言えるでしょう。

川はよりよい状態にして未来へとつなげなくてはならない財産でもあります。きれいな川もそれを支える市民も、江戸川を遡上する鮎も三郷の大切な資源です。



江戸川の鮎